

教育の大きな力は子どもたちのために



～今の教育はどうなのか？～

2022年9月19日（月祝）
教育のつどい大阪2022 全体会
池田市民会館アゼリア小ホール オンライン

I 「教育の条理」から見た教育の今

教育の条理とは

…教育の不変の原理・原則。

- ・ 教育の目的は子どもの成長・発達にあること。
- ・ 真理と真実に基づき、子ども、父母、教職員の3者の直接的で自由なむすびつきにより進められること。

0、「教育」を大きく変質させた安倍「教育再生」

- ・ 教育基本法改悪 2006年12月15日 → 教育を「子どものため」から「国家のため」のものに。
「教育の機会均等」保障を否定し、競争と切り捨ての教育・学校へ
目標管理と国による計画策定で国言いなりの教育に

以降 「全国学力学習状況調査」の開始、教育免許更新制導入、改悪教基法を反映させた「新学習指導要領」・学校教育法・地教行法の改悪…

- ・ 教育再生実行会議 → 別表

等

安倍「教育再生」がもたらしたもの

- ・ 教育を「国の求める資質・能力を持った人材を育てる場」
に変える。
- ・ 教育の中央集権化とトップダウンの強化
→ 教師の専門性への攻撃
- ・ 財界の求めに応じた公教育の市場開放、様々な教育への介
入に門戸を開く 等

1、テスト、テスト、テスト

- ・ 教育を歪めた「全国学力・学習状況調査」
- ・ 中学校教育を歪める、中学生「チャレンジテスト」

学校で評価した「本来の評価」が、「統一テスト」により決められた範囲に収まるように変えられる

→ 「評価」は何のためにあるのか？ だれのために行うのか？

- ・ 子どものころまで縛る、小学生「すくすくウォッチ」



速報 全国の学校に休校を要請へ

直接専門家の意見を聞いたもの
ではない。私の責任で判断した

疫学的にはほとんど意味がなかった。

全国学力・学習状況調査 大教組作成データ

(.xlsx ファイル) →



・統一テストは子どもたちのためになりますか？→なりません

統一テストは子どもたちの間に序列化と選別をもたらし、教育を競争原理に基づく「点取り合戦」の場に変質させる。

「テストを増やせば学力が上がる」わけではない。

「統一テストこそが学力の規準」という考えを当たり前にしない。

「ウォッチシート」イメージ

児童アンケートから
教科などのテストでは見えないあなたのよさです。

一度決めた目標や大切にしていることなどについて、ぶれずに最後まで取り組むことができます。あなたは物事に取り組むとき、周りの状況[じょうきょう]に流されずに、それをやりきることができる人だと考えられます。もし、あなたがやりたいことをやり続けることで誰[だれ]かとうまくいかないことがあれば、その人の表情[ひょうじょう]を見たり、話を聞いたりして、その人の気持ちを考えるようにしてみましょう。

子どもたちとともに過ごし、受けとめ、評価、学力について考えることも「教職の専門性」いつの間にか「全国学力・学習状況調査」のスコアアップが目的の教育施策に。

「全国学力・学習状況調査のための授業」
→「調査」を通じて「教育課程を縛る装置」へ。
国による「テストを通じた教育への介入、管理」に変質。

そもそも大阪はテストが多すぎる！

大阪府の1年間のテスト			
小学校	国の「全国学力・学習状況調査」 府の「大阪府すくすくウォッチ」 市町村の独自テスト	中学校	国の「全国学力・学習状況調査」 府の「チャレンジテスト」 市町村の独自テスト 各学校の定期テスト（年5回） 実力テスト（中3 年4～5回）

いつの間にか「テスト」が「当たり前」に。

「テスト」でしか学力を語れないことも「当たり前」に…

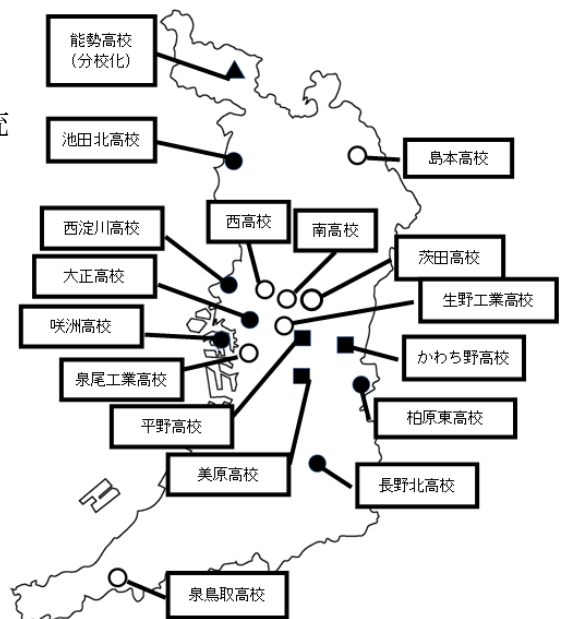
2、「子どもが笑えない大阪」高校つぶし

・「府立学校条例」で、「3年以上定員割れ」の学校が統廃合対象

→子どもの進路保障、地域の中心としての学校

【条例制定前の廃校（全日制）】
門真南・玉川・守口・八尾南・高槻南・上神谷・白菊・枚方西・加納・南寝屋川・横山・城山・少路・鳥飼・四條畷北・清友・西浦・砂川

【条例制定後の廃校】（地図参照）
●すでに廃校になった学校
○は移行方針が決定された学校
■2022年度募集停止案が発表された学校



※この他に勝山高校と桃谷高校 I・II 部が統廃合

3、政治、宗教、企業の介入

① 宗教による介入

ボランティアを装う統一協会系団体（CARP）、

「家族の絆」エッセイ、「いのちのつながり」作文（モラロジー道徳教育財団）

「日本会議」「神道政治連盟（神社本庁）」「親学」等右派系団体と「伝統的家族観」 など…



② 政治による介入

国旗と国歌の強制、教科書への介入、首長のトップダウン発信 など…

③ 企業による介入

デジタル教科書、万博教育プログラム、包括連携協定 など…

教職員や教育委員会がそもそも知らない、問題意識のない中で介入が進んでしまう危険性。

宗教、企業、政治による教育への介入、破壊。

Ⅲ～まとめと今後の展望をふくんで～ 教育の「大きな力」は子どもたちのために

では、どんな教育が求められるのか？ → 「教育の条理」に立ち返る。

子どもたちは大きな可能性を持ち、大人へと成長して未来を作り出していく存在です。教育は、そんな子どもたちの大きな可能性を伸ばし、「人格の完成」へ全面発達をめざし、個性豊かな子どもたちとともに未来を紡いでいく営みです。

学校は、テスト学力だけでなく子どもたちの全面的な発達と成長の場です。国からのトップダウンの教育施策ではなく、「目の前の子どもをどう受け止めて、どう育てていくのか？」ということを教職員、父母・府民、そして子どもたちが共に考え、「参加と共同の教育・学校づくり」の実現へ、力を合わせることでより一層求められます。



今年度の「教育のつどい大阪」が、子どもたちのための今後の学校教育についての展望を共有できる場となるとともに、幅広い参加と共同の力を生み出す場となることを期待して、基調報告とさせていただきます。

今日の全体会をスタートに、教育のつどい大阪 2022 が豊かな学びある研究活動の場となるよう、共に作り上げていきましょう。

大阪教職員組合 今井 政廣

**「トップダウンでやってくる『教育』をこなす」学校ではなく、
「子どもの実態から始まる参加と共同の教育課程づくり」の学校へ。
「教育のつどい大阪」の学びや交流の中で子どもたちのための「教育」を共に考え、見つけていきましょう。**